

へき地医療を続けながら 思うこと

日高医師会
えりも町国保診療所 所長
渡 邊 寛 文

消化器外科医として働いていた千葉の病院を辞めて、えりもに赴任して4年半が経ちました。赴任して約1年でかかりつけ患者さんの名前と顔、病状が一致し、2年で診療所に受診する患者さん、救急車で搬送される患者さんの傾向を理解することができるようになり、3年でこれらの解決策を模索するようになり、4年で脳心血管イベントの減少など成果になって表れていると実感している。医師がへき地にある程度の長期にわたり勤務する環境を整えることは、患者さんにとっても良いことだと考えている。

だから医師が短期間へき地で働いて疲れ果てて辞めていく悪いサイクルを変える必要があると感じている。忙し過ぎて倒れたり、自分の健康管理をする余裕もなく病気で倒れたり、家族と疎遠になったりしてはいけません。われわれ医師は、マラソンをするように長く医療に従事し、多くの患者さんを助ける使命があるのです。限界を超えて無理をして途中で棄権してはダメなのです。また、医療は日進月歩なので勉強する余裕も無いほど働いてはいけません。へき地で安定的に医師が勤務を続けるには、適切な勤務時間になるように休日に当直医を雇用するなどして休息の時間を与えるべきです。休日に家族とともに過ごすことも必要なことです。どんなに本人が働きたいと思っても家族が嫌と言ったら働き続けられなくなります。時にスーパーマンのように24時間365日働く医師をマスコミで紹介していますが、へき地で働く医師がスーパーマンでなければならぬのならへき地で働く医師は、ほとんどいないでしょう。これは、決して住民にとってもわれわれ医師にとっても良いことではないのです。そして、短期の勤務だったとしても辛い思い出ばかりなら再びへき地で働きたいと思うのでしょうか？

私がえりもに赴任したきっかけは、自衛隊医官の駆け出しのころに勤務した帯広の部隊で良い上司、同僚、部下と出会い、外科医として研修に出た帯広や釧路の総合病院でも素晴らしい上司、仲間と出会い、いつか再び北海道で勤務したいと思っていたからです。

それから、日本のシステムは、箱モノには金をかけるけど人にはあまり金をかけません。人にかかるコストが少なければ人が集まらず、少ない人数で患者さんに対応せねばならず、疲れ果ててしまうのは必然です。建物、機器だけでなく、運用し、活用する人にももっとコストをかけるべきでしょう。



医師と受け入れる側との関係も重要です。えりもへの赴任にあたり、事務長をはじめとした町関係者は、私の住む家を可能な限り整備し、首がすわったばかりの小さな息子を育てなければならぬ九州出身の妻をフォローしてくれた。妻が悪阻で急遽帯広の病院に入院することになった際には、妻の母親が九州から来るまでの短期間ではあったが、1歳ちょっとの息子を診療中に事務長の奥さんが預かってくれたりもした。家族のように接してくれる事務長に大変に助けられた。また、町長や副町長も診療所の要望を真摯に聞いて対処してくれた。だから私は、診療と診療能力の向上に専念することができた。医師をとっても大切にしてくれる町と町民に感謝している。

しかし、診療所の赤字は、悩ましい問題である。町は、必要なコストだから仕方ないと言いますが、自分たちの労働の成果が赤字だと思うのは、気持ちの良いものではありません。診療所が入院患者さんを持つことを厚労省が望んでいないことは、診療所の入院基本料をみれば理解できる。しかし、えりものようなへき地では、診療所規模で短期、長期も含め入院を受け入れる必要性があるのです。可能な限り当院で患者さんを受け入れることで、町の人たちが仕事をしながらも診療所に入院している患者さんを毎日見舞いに来られる状態が理想だと考えます。

看護師不足は、多くのへき地でも深刻だと思いますが、当院では何とか対処できている。4年前まで夜勤看護師1名、警備員1名で夜勤を行っていた。これでは、看護師が大変だということで前所長の考案で看護助手をパートで5名ほど採用した。動けない患者さんのおむつ交換、体位交換など看護助手にできることは、看護助手が行うことにより看護師は、看護に専念できるようになり、また、夜間の体位交換を2時間ごとにしっかり行うことができるようになり、褥瘡がほぼ皆無になった。また、病棟の車椅子、点滴台を看護助手たちがこまめに整備することでいつも快適に利用できるようになった。看護師不足の中でやむを得ず導入した看護助手であるが、コストも少なく、看護師にも患者さんに喜ばれ、非常にうまく機能している。

最後に当院から重症患者さんを紹介する時には、当地の事情を理解し、患者さんを多忙な中でも快く引き受けていただいている浦河赤十字病院、帯広の北斗病院、帯広厚生病院をはじめとした多くの病院の先生方に本当に感謝しています。